

学生インターン/学生スタッフ

「生」の声をききました！

インタビューアー
ペパーソンキッズアンドユース
マネージャー 安藤抄苗

ペパーソンキッズアンドユースでは、充実した小学生の放課後を過ごすための取り組みとして学童保育事業、長期休暇を利用し幅広い経験やコミュニケーション力を養うサマースクールスプリングスクールの企画運営、想像力×創造力を身につけるアートイベントなど、小学生へ向けた幅広い体験/教育活動を行っています。

小学生は与えられた環境により、大きく成長します。この環境を作っていくのがスタッフであり、またスタッフひとりひとりも環境の一部です。経験豊富なスタッフの声がけ一つ、コミュニケーションの一つが、子どもの気づきや学びを与えます。学生スタッフは子どもたちのより良い環境を作る上で欠かせない存在です。未来に向かって夢を持つ背中をみせること、子どもたちと一緒に遊ぶこと・学ぶことを楽しみ共感すること、学生スタッフにしかできない活動をペパーソンキッズアンドユースで経験した皆さんを紹介します。

得意の英語でインターンシップ
ゼロからクラスを作る経験ができました

Profile

菊地真由

テンブル大学卒（予定）

PEP歴 3年



インターン及び学生スタッフとしての取り組み

- 英語クラス立ち上げ準備
(カリキュラム構成・指導案)
- 授業の指導 (指導案・教材準備)
- 授業の振り返りと課題検討
- 保護者レビュー

安藤：まゆさんには英語クラスの立ち上げの時からインターンとして関わってもらいました。日々の活動内容と様子を聞かせてください。

まゆさん：インターンでは、英語クラスの立ち上げ、レッスンと振り返り、保護者へのレッスンレポート作成などを行いました。

立ち上げたばかりの時は、どのようにクラスを構成したらよいか、どうしたら子どもの興味を引き出すレッスンができるのか、子どもたちを集中させながらどう進めるかなど、考え悩むことがたくさんありました。

スタッフさんとミーティングを重ね、試行錯誤の毎日でした。ミーティングは2～3時間！も議論を重ねたこともあります。厳しい指摘を受けて、気持ちが凹んでしまうこともありました。一方でいい形になった時に褒めてもらった時はとても嬉しく、次のレッスンへの原動力になりました。

安藤：投げ出さずにやり通す！ その姿勢はとても大切だと感じます。前向きに頑張るまゆさんの姿に頼もしさを感じました。この経験からどんな学びがありましたか。

まゆさん：私が主導してゼロからレスプランを作ることで、それが形となってクラスに子どもが来て、レッスンすること、全てが貴重な経験です。この経験は、一定の枠の中でクラスの内容、教材準備、時間配分などをしっかり準備することを学びました。レッスンでは今できることと今の限界を知り、自分を客観的に見つめることもできました。

また、子供達は素直でわかりやすいけれど、英語をどう習得していくか、設定した課題にどう反応するかはひとりひとり異なります。子どもたちを観察することが大切であることを学びました。また英語レベルや習熟度の異なる子どもたちがいるクラスをまとめていくことは苦労しましたが、いい挑戦でした。

子どもたちを見ていると、子どもたちの本気やこだわり、小さい頃の私もこんな風だったんだなあと感じることや、こういうこという気持ちわかる！と思うことが頻繁にありました。子ども時代を振り返ることができたことも学びの一つですね。

安藤：子ども時代の原点に触れられるというのも、ここでのインターンの魅力の一つですね。感じたままに表現したり、楽しい時もつまらない時も、子どもたちの反応は正直で、スタッフとして試されていると感じる時もあります。子どもの頃の英語との出会いについて聞かせてください。

まゆさん：中学の初めは、英語に対して苦手意識を持っていました。転機は中2の時教えてくれた先生の英語の授業が好きで、英語好きになりました。高校を卒業した春休みに海外ボランティアへ参加し、その後憧れだったテンブル大学へ入学しました。

入学したばかりの頃、全て英語で行われる授業についていくことは大変で、エッセイやプレゼンテーションなどの課題はとてもハードでしたが、少しずつ自分の意見を言うことができるようになってきて、達成感を感じています。子どもたちと過ごした「英語を通じた時間」は、自分自身の英語への理解を、助けてくれています。

安藤：英語の学びは就職活動でも有利になりましたか？

まゆさん：英語そのものが就職活動で有利になった部分もあるかもしれませんが、私はインターンで経験した苦労や成長をよく話しました。**面接の際に具体的な活動内容に聞かれることも多く、主体的に取り組んできたインターンとしての日々を評価してもらったと**

感じています。

安藤：まゆさんの掲げる未来。海外の大学院で学びたい！英語を教える人になりたい！という夢に向かって、これからも邁進してください。応援しています。

学生スタッフとしての取り組み

•がくどうプラス指導員補助

学習環境整備、学習指導、生活指導、課外活動引率、保護者報告

•学習教室リーダー（算数）

授業事前準備、授業構成、丸つけ、習熟度確認



「そう行動するには**わけがある**」子どもたちとの関わりで私が気づいたこと

Profile

扇谷彩

首都大学東京卒

PEP歴 1年半

安藤：学級委員や陸上部、陸上部マネージャーと、とても活発な少女時代だったと聞いています。学生スタッフとして、どのような活動を行ってきたか、振り返ってみましょう。

あやさん：がくどうプラスでは、学校から帰ってきた小学生の入室時のサポートや、宿題のフォロー、グループ活動、日々の生活のサポート、学習教室（算数）の指導、課外活動（スケート、国際理解イベント）引率を担当しました。

私がスタッフとして入るとき、よく考えていたことは、なぜこのプログラムをやっているのか、今（今日）やるべきことの優先順位は何か、聞いて、考えて、行動することが大切だということでした。子どもたちを前に、こうでなくてはならないというマニュアルはなく、スタッフさんからの指示を待つのではなく、**自分から動くことを意識**していました。

安藤：活動ひとつひとつの理解を深め、子どもと真剣に、そして丁寧に接している姿をよく目にしていました。学生スタッフとして、具体的に実践したことはどのようなことですか。

あやさん：大きく分けて3つあります。ひとつは、子どもの**過ごす環境をしっかり整える**ことです。机、椅子を整えて配置すること、学習道具（鉛筆削り・消しゴムカス用のちりとり、鉛筆など）の置く場所を決めて戻しやすくする工夫、時計の場所を変えて子どもの集中が途切れないようにする工夫を行いました。環境が整うと子どもの行

動に変化も感じられました。二つ目に、子どもたちが喧嘩したときの**対処**はその都度学びを得る機会となりました。やみくもに首をつっこむのではなく、一人一人としっかり話をし、どうしてそういう行動をしたのか、どんな背景があったのかということを理解して指導すること、そしてこの子の本音に向き合うことが大切であることに気づきました。スタッフさんの対応からも先生が来たから、子どもたちがただごめんなさいと言う…という形式や、「喧嘩＝先生に怒られる」ということではない解決方法が必要であることを学びました。

三つ目は、スタッフとして子どもたちと関わる時間の経過とともに、子どもたちの性格や行動の特徴、個性を理解し、**時と場合によってどんな声かけが適切か**を考えながら、一人一人にあった声かけを意識しました。同じことを伝えても、それぞれ受け止め方は違うし、同じ子に同じ話をしたときにも、日によって反応や動きが違っていました。「人」との関わり方の奥深さを知りました。

安藤：私も子どもとの関わりでは、日々学びがあります。声をかけるタイミング、内容、状況など工夫すること、そして子どもの様子や反応を見ながら、**指導の軸にブレないようにサポート**していくことが大切だと思っています。さて、就職活動で、がくどうプラスでの経験を話す機会があったと聞きました。

あやさん：就職活動では、よくがくどうプラスでの経験を話しました。内定

をもらった航空関係2社の面接では、がくどうプラスの子どもたちとの関わりから学んだ経験と自分の気づきとして「**行動の裏には何かしらの思い（考え）があること**」をよく話す機会がありました。先ほどお話した具体的に経験・実践したことをまとめて話したのですが、何より子ども達を目の前に考え・経験・実践したからこそ、伝えることができた内容でした。

安藤：学生の皆さんにがくどうプラスを紹介するとしたら、どんな場所ですか？

あやさん：がくどうプラスは子どもに**考えて行動することを大切にしている**と感じます。子どもたちが〇〇したい！と言う時、まず受け止めあげ、そして自主性を大切にあげている。スタッフの皆さんが子どもたちと話しているところや対応を見ると、一人一人のことを考えていることがわかります。

その他にも、子どもたちはいろいろなことへ興味を持ち、感じたことや考えたことを友達やスタッフと盛んに共感しあっています。子ども達にとって**ありのままの自分を出せる良い場所**だなと思います。

安藤：そう話してくれる時のあやさんの笑顔。この笑顔が子ども達に安心感を与えてくれました。私があやさんに声をかけるといつも「楽しいです！子どもたちの話を聞くことがとても楽しくて、とても可愛い！」と言ってくれていました。学生スタッフとしての活躍、ありがとうございました。

学生スタッフとしての取り組み

- がくどうプラス指導員補助
- 学習環境整備、学習指導、生活指導、課外活動引率、保護者報告
- 長期休暇中サマースクールサポートスタッフ



子どもってキラキラしているなあとおもいます。「いつか子どもと関わる仕事がしたい」と、心が動きました

Profile
望月俊毅
首都大学東京卒
PEP歴 8か月

安藤：初めてサポートスタッフとして入ってもらった活動はサマースクールでした。

望月さん：サマースクールでは、スタッフさんは毎日忙しく活動していて、倒れそうになりながら子どもたちのために頑張っていました。その姿を見て心を打たれました。こんなに人のために頑張っているのだと。

安藤：サマースクールは、長期休暇中に様々な学校から小学生が集まりテーマに合わせて子どもが主体的に体験学習を行います。子どもたちと一緒にスタッフも汗を流し、安全に配慮しながら、ダイナミックな活動をしていくことは容易ではありません。一方で「こんなことができた!」「はじめて知った!」と言う時の子どもたちの目の輝きを見ると、スタッフとして大きな喜びを感じることができます。これもサマースクールの醍醐味の一つです。

望月さん：サマースクール以降、学生

スタッフとして週1回関わらせてもらいました。子どもたちは、それぞれ個性があって可愛いですし、童心に戻って子どもたちと一緒に遊ぶ時間はとても楽しかったです。ケイドロ、色鬼、氷鬼、サッカー、子どもの頃の遊びと今も同じですね!

安藤：子どもたちとの関わりの中でどんな学びがありましたか。

望月さん：楽しいだけではなく、学びを得る時間にもなりました。子どもが何か悪いことをしてしまったとき、厳しく注意するものだと思っていました。でも実際は**様々な注意の仕方がある**。自分の声が大きいと子どもの声も大きくなることや、声のトーンを下げて落ち着いて話すようにすることがと時に有効だということを知りました。スタッフの皆さんは、自分の考えを持っていて、**子どもに対して真剣でそして全力でサポート**している。子どもとの関わり方を学ぶと同時に、一緒に

働けることを嬉しく思いました。また、子どもたちは何に取り組むときにも心から楽しみ、一生懸命で、みんなキラキラしています。一方、大学生になって自分自身が曇っているように感じることもありました。子どもと接する中で一生懸命前向きに取り組む気持ちになれたり、元気をもらうことができ、子どもたちから「素直に感じる心」を学びました。

安藤：これから先がくどうプラスで過ごした経験が少しでも生かされると、私たちも嬉しく思います。

望月さん：僕は銀行に就職しますが、将来的には通信などで教育に関する勉強・資格を取り「子どもに関わる仕事がしたい!」と思っています。

安藤：いつも明るく子どもと接してくれて、子どもと思いきり遊んでくれた望月さん。またいつか一緒に働けると嬉しいなと未来を描きながら、今後の活躍を応援しています。

インタビューを振り返り、大学生がペパーソンキッズアンドユースで過ごした時間の中で、様々な学びを子どもたちから得て過ごしていたことに感銘を受けました。自ら考え、行動する大学生との出会いは貴重で、現場スタッフにとっても良い刺激です。

また子どもたちは、「今日〇〇先生来る♪?」と学生スタッフと会えることを心待ちにしています。関係は、1日でできるものではなく、日々のコミュニケーション、子どもたちと向き合っていく中で形成されます。無垢な笑顔で、純粋で、時にまっすぐ感情を全力でぶつけてくれる子どもたち。そんな子どもたちの成長と一緒に応援し、挑戦してみたいというみなさんの応募を待っています!

マネージャー 安藤抄苗



ペパーソンキッズアンドユース 学生スタッフ/学生インターンを募集します

- 皆さんの頑張りを待っています
○子どもと遊ぶことが好き!
○教育・異文化理解・国際協力に関わる仕事に携わりたい!
○自分に何ができるか、考えて行動する人!

募集タイプ1) がくどうプラス学生スタッフ
週1~3、シフト制
学習指導・生活指導・様々な遊び・課外活動(国際理解教育、プール、スケートほか)

募集タイプ2) 長期休暇中のスクールプログラムサポートスタッフ
6月・7月下旬~8月、3月下旬(大学生の春休みなどに合わせて日程は要相談)
学習指導・様々な遊び・課外活動(キャンプ、山登り、宿泊、クッキング、アート活動ほか)

問い合わせ・面接・相談
ペパーソンキッズアンドユース
メールでお問い合わせください。
peperson.international@gmail.com



神谷哲郎 (Tetsuo Kamitani)
ペパーソンインターナショナル(株)代表取締役
筑波大学北アフリカセンター客員共同研究員
国際開発機構 (FASID) 認定 PCM研修講師
島根県親学プログラムファシリテーター
ヨルダン、フィリピン、エジプトなど5か国で人形劇団を主宰、相模原市児童厚生施設見直し協議会委員

社会教育の一翼を担う弊社は、社会的企業として、子育てを取り巻く諸課題の解決にむけた仕組みづくり・モデル構築を目指しています。25年間のJICA,国連での途上国支援の経験を踏まえ、学生さんのキャリア形成と一緒に考え、共に成長していければと考えています。Think Globally, start locally, and make the world your stage!

